

## 奄美群島の伝統文様の図形化と用途展開に関する研究（第一報）

デザイン・工芸部 ○山田淳人，上原守峰，中村寿一

### 1. はじめに

奄美群島は、地理的にも歴史的にも独自の文化を育んでおり、固有の動植物だけでなく文化や風俗などの貴重な宝庫と言える。そこで当部では、針突（はづき）の文様や奄美群島に残る他の文様（伝統建造物である高倉に施されている文様や独自の大島紬に利用されている文様など）を調査収集し、その文様をデータ化・図形化する手法研究やこれらの文様を複合利用するなどして新規文様の創出を行い、奄美群島の伝統文様を利用した商品開発の事例研究を行っている。

### 2. 伝統的文様とその図形データ化

奄美地域に残る伝統的な文様として、代表的な針突の文様と高倉に施されている文様の図形データ化を行った。針突は、明治の初め頃まで、奄美地域の女性の手に施されていた入れ墨で、女性にとって針突を施すことは憧れであった。文様には意味があるものもあり、奄美群島の中でも各島々によりその文様は微妙に違う。高倉の文様は、入り口上部に施されており、文様には呪術的、目印的なものなど諸説あるが、不明である。比較的直線的な文様が多く、「数」を表したであろう規則的なものもある。

それぞれ文献に残されている文様をベースに画像処理ソフトにて図形データ化を行った。図形データ化に当たっては、文献にあるオリジナルの文様を尊重し、図形の構成要素である向きや辺や角の個数などは変更しなかった。

### 3. 用途展開の事例

#### 3. 1 染織企業関係への展開（支援中）

図形化されたデータをもとにレーザ加工機を使い、板締め染色用の型板を作成した（図1）。奄美大島本島内の染織企業に型板の配布を行い、モニタリングを行った。結果として、体験染色を行う場合、これまで絞り染めが主流であったが、板締め染色を加えることで、バリエーションが広がったことやある程度染め上がりが予想できるため、体験染色向けであるということなどがわかった。針突の文様の意味を知らずに使用している企業が大部分であったため、意味の一覧を作成し配布も行った。意味を知ることによって、商品のもつ訴求力が増す事例もあり好評である。他に關心ある企業があれば対応していきたい。商品化された事例を図2に示す。



図1 板締め染色用型板と染色見本



図2 商品化された例（暖簾）

### 3. 2 木工企業関係への展開（支援中）

レーザ加工機を利用することで、手加工には困難な細かい加工が可能である。奄美本島内の木工関連企業にサンプルを送付し、モニタリングを行っている。また、アクセサリやキーホルダーなどを想定した大きさに試作を行っている（図3）。模様の変形や着色を施すことで、企業独自の商品展開が可能となる。要望があれば今後も対応をしていきたい。



図3 針突文様と高倉文様を使った木製品サンプル

### 3. 3 その他企業への展開（支援中）

レーザ加工機を利用し、皮革の切断実験を行った（図4）。木材同様、切断は可能であり、手加工では困難な細かい切断が可能となるが、革の種類や厚みによって、加工条件を変えていかねばならない。今後、最適な加工条件を試作などを通じて探っていきたい。模様を施すことで、より奄美の伝統文化を反映した商品となると考えられる。

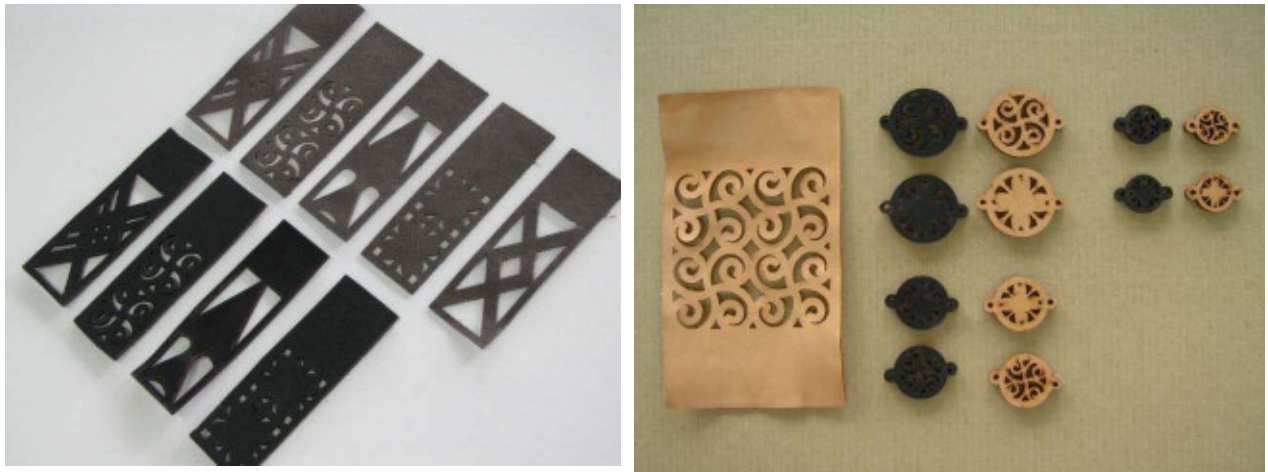


図4 針突文様と高倉文様を使った革製品サンプル

## 4. おわりに

県内各地でその地域独自の素材はみられるが、奄美群島のように独自の文様を保有した地域は県内では稀であり、貴重な財産であるといえる。奄美の素材を奄美の文様を活用して商品化することは、より魅力的な商品になるのではないかとと思われる。ただし、呪術的な意味合いを持つものも多いため、適切な利用が重要となるであろう。今後も、奄美関連の文様情報を調査収集するとともに、用途を多方面に展開出来るよう地元の方の協力を得ながら進めていきたい。